

はじめに

小倉山は嵐山とともに保津川（大堰川）の溪谷美と一体となる森林美を形成しています。

東側山麓部に数多くみられる寺院や名所旧跡をとりまく森林は、歴史的価値を高める地域の景観を構成する要素として重要な役割を果たしています。

また、「小倉百人一首」の撰集の舞台となり、数々の詩歌に詠まれるなど時代を重ねても景勝地であったことが伺えます。

京都を代表する景勝地である本地域は、現行の文化財保護法の前身である史蹟名勝天然記念物保存法により「史蹟及び名勝嵐山」に指定されるとともに、史蹟及び名勝嵐山保全管理計画（平成10年3月京都府教育委員会）が策定され、歴史と森林との景観が調和しながら今に至るまで歴史を刻み続けています。

平成25年度～29年度前期計画では「マツ枯」「ナラ枯」「シカ被害による森林の更新不全」への取り組みとして大規模な森林再生事業が行われ、再生地については荒廃していた小倉山の森林環境が大きく改善されました。

また、ナラ枯れについては定期的な伐採と燻蒸処理が行われ、病害虫以外も一定の終息を迎えつつあります。明るく整備された森林景観に誘われて府立嵐山公園（亀山地区）から訪れる観光客も多く、地元ハイカーも六丁峠まで足を運ぶ方々を多くみかけるようになりました。

その一方で、枯死木処理した森林がソヨゴ過密林へと変化し倒木等も数多く山林内でみられることから、景観的、防災的にも改善すべき森林へと変化しつつあります。

後期計画（平成30年度～34年度）を検討するにあたり景観はもとより、斜面防災、生物多様性保全面においても取り組むべき課題は多く残っています。

4年間という月日の流れから小倉山をとりまく自然、社会条件も変化しています。

その変化を加味した費用対効果の高い後期事業計画を策定する必要が生じています。

前期計画時、大きなテーマであった地域連携体制という点については、策定直後に「景勝・小倉山を守る会」が発足し、地元寺院や地域組織等の方々とともに、植樹活動、森の維持管理活動を継続的に行ってきました。

その甲斐あって、植栽当初0.8mほどであったアカマツの苗が2m以上に生長しており、少しずつではありますが、森林景観の再生、地域の人々との心をつなぐ活動が実りつつあると思えます。

本資料では、第1章で『前期計画の実施状況』とし、前期計画の成果と課題をふりかえり、第2章で自然・社会環境の変化を知るために『自然環境調査』を実施した結果から、後期計画策定にあたっての課題と視点を整理しました。そして第3章では1章、2章での成果と課題をふまえた『後期計画』の策定を行い、景観形成価値が極めて高いエリアや斜面防災上の整備の必要性が高いエリア、生物多様性保全を図る必要性の高いエリアの抽出・検証を行っています。

これからの三山の山々の50年後、100年後を見据えた持続的な森林景観づくりをすすめていくためには、市民やNPO、事業者、森林所有者など様々な主体と行政が、それぞれの立場でできることを考え、協働という形で力を結集しながら取り組んでいく必要があります。特に、小倉山では、この協働という形が少しづつではありますが構築されつつあります。

小倉山周辺の地域の自主的な森づくり活動を活性化することにより、本市所有林でのモデルとなるよう取り組みたいと考えています。

～小倉山が詠まれた歌～

小倉山みれのもみじの葉心あれば今一度の御幸またなん
（貞信公（藤原忠平）：拾遺集，十七，雑秋，小倉百人一首撰集）

牡鹿なく小倉の山すそ近みただひとりすむわが心かな
（西行法師：小倉百人一首）

わが庵は小倉の山の近ければ浮き世を鹿と鳴かぬ心かな
（八条院高倉（新勅撰集，五，秋歌下）

小倉山麓の里に籠り居て浮世のさがと嘆く頃かな
（飛鳥井雅有：隣女集，二）

山里はみな冬がれて小男鹿の音にぞ僅かに秋は残れる
（覚性法親王：出観集，秋歌）



【小倉山の立地特性と景観】

目 次

第1章 事業概要			
事業概要	1		
第2章 「事業計画」の整理及び方針の微調整			
1 前期計画時の課題の整理（森林景観の低下が与える影響）	2		
2 前期計画時の課題の整理（森林の被害状況）	3		
3 事業の実施状況	4		
4 整備エリアごとの森林整備効果と課題	5		
5 前期計画の成果と課題	8		
第3章 自然環境調査			
1 森林公益性と各調査項目の考え方	9		
2 景観形成価値に関する調査	10		
(1) 植生図作成調査	10		
(2) 景観調査	10		
1) 歴史的要素	11		
ア) 景観の成り立ち	12		
イ) 絵図（江戸時代）から遡る小倉山の森林景観	12		
ウ) 絵図（昭和）から遡る小倉山の森林景観	13		
エ) 古写真から遡る小倉山の森林景観	14		
オ) 「山麓寺院」「史跡及び名勝嵐山」の森林景観の課題について	15		
2) 自然的要素（森林景観）	16		
ア) 景観要素	16		
イ) 森林景観調査	17		
ウ) 景観（可視領域）分析結果	19		
3) 林内景観（登山道沿いからの景観）に関する調査	20		
(3) モニタリング調査（苗木の生育調査）	21		
3 斜面防災的価値に関する調査	23		
(1) 傾斜区分	23		
(2) 倒木及び危険地の把握	24		
4 地域生態系保全価値に関する調査	25		
(1) 植物相調査	25		
(2) 忌避植物及びナラ枯れ調査	26		
(3) シカの影響と植生の復元状況	27		
(4) 重要種保全のための基礎調査	28		
5 調査結果総括	29		
(1) 景観形成価値	29		
(2) 斜面防災的価値	30		
(3) 地域生態系保全価値	31		
第4章 地域連携調査			
1 アンケート調査	32		
2 地域連携方法の検討	33		
第5章 基本計画及び基本設計			
1 基本計画	34		
(1) 後期計画に向けた整備の方向性	34		
(2) ゾーニングの検討及び設定	35		
1) ガイドラインに基づいた森林目標像	35		
2) 整備エリアの検討（前期計画との照し合せ）	36		
3) ゾーニング及び整備エリアの設定	37		
(3) 立地類型区分（対応する立地類型の考察）	38		
(4) 森林の目標像の検討（基本計画書の作成）	39		
1) 「具体的な目標とする森林像」を検討するためのポイント	39		
2) 「具体的な目標とする森林像」	40		
(5) 整備年度の検討及び設定（植樹エリアの設定）	44		
(6) 登山ルート兼、維持管理ルート整備	45		
2 基本設計	46		
(1) 毎木調査（整備地の現況診断）	46		
(2) 基本計画図の作成（概算工事費の算出）	48		
第6章 今後の課題			
1 維持管理ルートの整備	55		
2 シカ等獣害対策について	56		
3 地域連携の構築・方策の検討	57		
資料編 1 参考：小倉山におけるアカマツ保全林の取り組み			
資料編 2 史跡及び名勝嵐山保存管理計画地区区分図			